

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

平成20年度病害虫発生予察 注意報第4号

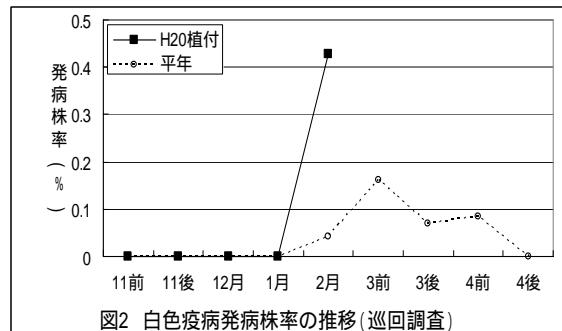
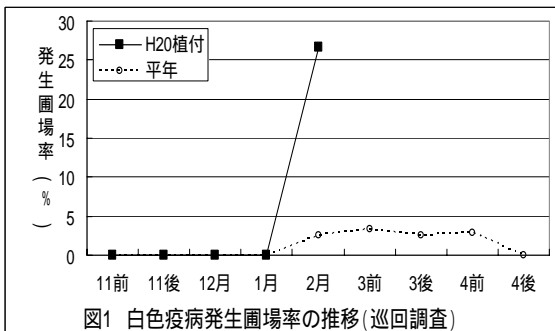
タマネギ 白色疫病、べと病

- 1. 発生地域（対象地域） 県下全域
- 2. 発生程度 多
- 3. 注意報発令の根拠

(1) 白色疫病

ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.4%(平年0.0%)、発生圃場率26.7%(平年2.5%)であり、平年より発生が早く、発生圃場率、発病株率ともに高い。

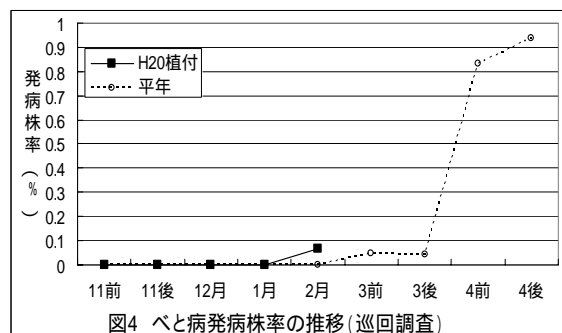
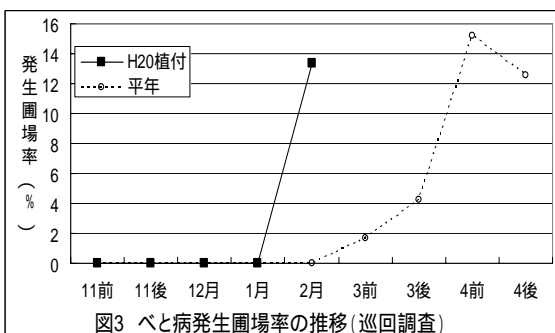
イ 気象予報(福岡管区气象台、平成21年2月6日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。



(2) べと病

ア 2月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率0.1%(平年:発生を認めない)、発生圃場率13.3%(平年:発生を認めない)であり、平年より発生が早く、発生圃場率が高い。

イ 気象予報(福岡管区气象台、平成21年2月6日発表)によると九州北部の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。



4. 防除対策

(1) 白色疫病

ア 症状は、初め中央部付近に不整形で周縁がやや不鮮明な油浸状の青白色病斑を生じ、病斑が拡大すると葉が下垂したり、よじれたりする。病斑が古くなると白色～灰白色となり、健全部との境は明瞭となる（写真参照）。生理障害である葉先枯れ症状と混同しやすいので注意する。

イ 排水につとめ、過湿を避ける。

ウ 十分圃場観察を行い早期発見に努め、発生を認めたら速やかに薬剤防除を行う。

エ 罹病した葉、枯死した葉は感染源となるので、適切に処分する。



図5 白色疫病の病徴

左 : 発生圃場

左下 : 発病株（全身図）

右下 : 折れ曲がり症状



(2) ベと病

ア 越冬した罹病株は、全体に草丈が低く、葉につやが無く、やや黄化して外に湾曲し、温湿度が高いと全身に白色のつゆ状または暗紫色のカビが生じる。発見したら二次感染が始まる前に抜き取り、適切に処分する。

イ 肥料切れしないように肥培管理を適切にする。

ウ 発生初期のうちに速やかに薬剤散布を行う。薬剤耐性菌を生じるおそれがあるので、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



図6 ベと病発生圃場



図7 ベと病の発病状況（表面にかびを生じる）

病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027